

2014年度第2四半期（4-9月）決算の概要

1. 経営成績

- (1) 連結売上高は、自動車関連製品の拡販が進んだことなどにより、前年同期比2.6%増の823億円となりました。
- (2) 利益面では、原燃料価格が前年同期比高値となったことなどにより、連結営業利益は前年同期比17.2%減の34億円、連結経常利益は前年同期比24.1%減の38億円となりました。
- (3) 中間配当は、前期末配当と同じ1株当たり7円50銭とさせていただきます。

(単位：億円)

	連 結			単 体		
	2013年度 第2四半期累計	2014年度 第2四半期累計	伸び率(%)	2013年度 第2四半期累計	2014年度 第2四半期累計	伸び率(%)
売 上 高	802	823	2.6	493	516	4.7
営 業 利 益	41	34	△17.2	17	13	△24.0
経 常 利 益	51	38	△24.1	28	24	△16.1
当 期 純 利 益	29	23	△22.3	21	17	△18.0

2. セグメント別連結売上高

(単位：億円)

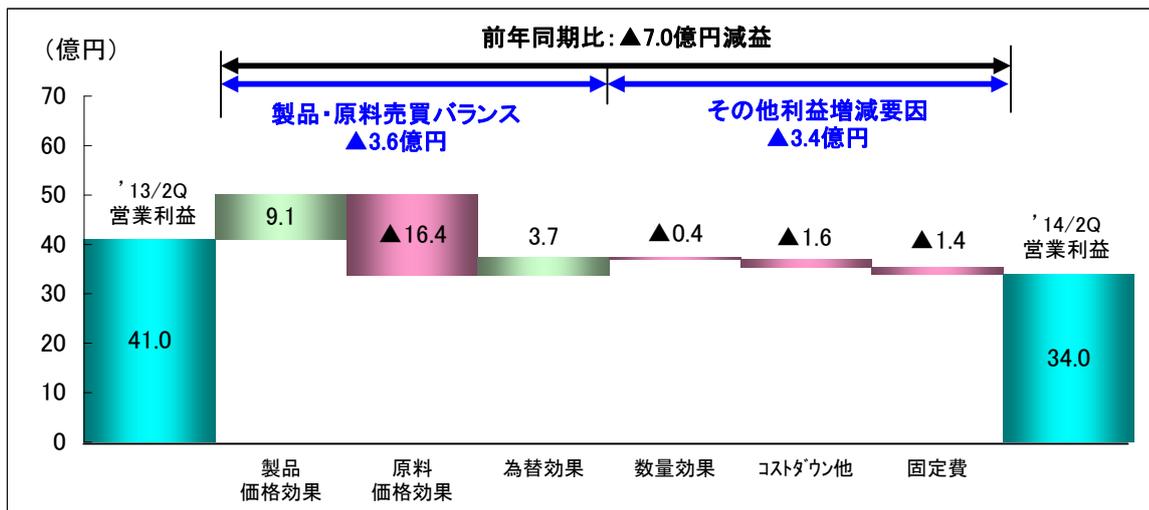
	2013年度 第2四半期累計		2014年度 第2四半期累計		前年同期比	
	売上高	構成比(%)	売上高	構成比(%)	増減	伸び率(%)
生活・健康産業関連	333	41.5	325	39.5	△8	△2.4
石油・輸送機産業関連	181	22.6	197	23.9	16	8.7
プラスチック・繊維産業関連	96	12.0	108	13.1	12	11.6
情報・電気電子産業関連	104	12.9	99	12.1	△5	△4.2
環境・住設産業関連他	88	11.0	94	11.4	6	7.1
合 計	802	100.0	823	100.0	21	2.6

3. セグメント別連結営業利益

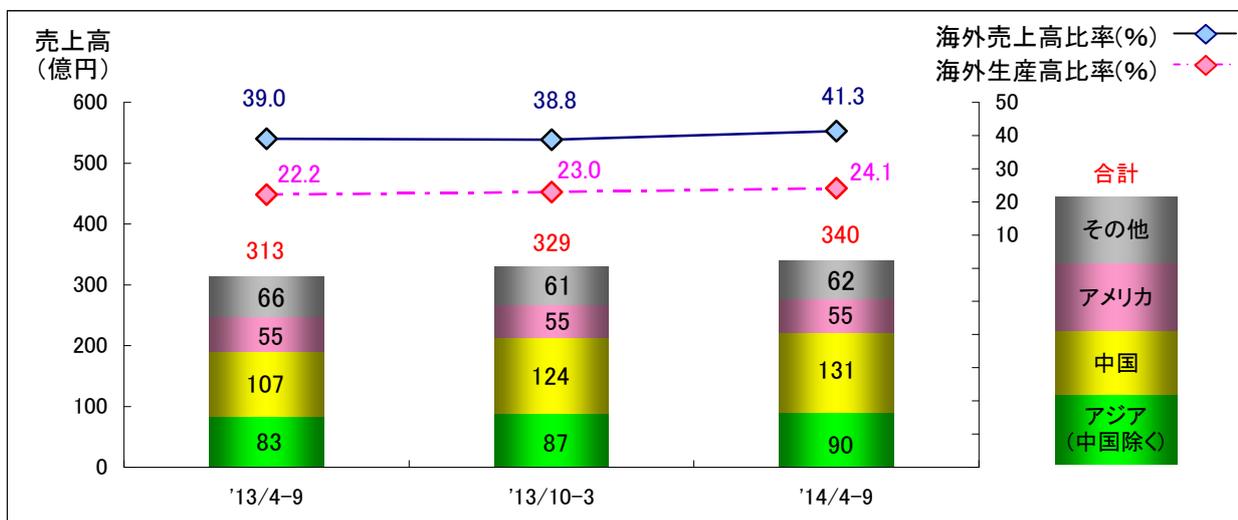
(単位：億円)

	2013年度 第2四半期累計	2014年度 第2四半期累計	前年同期比	
			増減	伸び率(%)
生活・健康産業関連	19.7	14.9	△4.8	△24.1
石油・輸送機産業関連	7.4	3.4	△4.0	△53.6
プラスチック・繊維産業関連	11.3	11.5	0.2	1.9
情報・電気電子産業関連	3.3	4.0	0.7	23.0
環境・住設産業関連他	△0.7	△0.0	0.7	—
合 計	41.0	34.0	△7.0	△17.2

4. 連結営業利益の増減分析（前年同期比）



5. 連結海外売上高の推移



6. 配当の状況

	1株当たり配当金			配当性向 (連結)
	中間	期末	年間	
	円銭	円銭	円銭	%
2012年度	7.50	7.50	15.00	39.6
2013年度	7.50	7.50	15.00	33.6
2014年度 (予想)	7.50	7.50	15.00	27.6

7. 2014年度業績予想

当第2四半期累計業績の状況および直近の原燃料価格低下や円安傾向にある為替動向等をふまえ、平成26年4月30日に公表した連結業績予想を据え置き、連結売上高は前期比68億円の増収を見込みます。利益面では、増収効果により、連結営業利益で前期比7億円の増益、連結経常利益は同8億円の増益を見込みます。

(単位：億円)

	連 結			単 体		
	2014年度	前期比		2014年度	前期比	
		増減	伸び率 (%)		増減	伸び率 (%)
売上高	1,720	68	4.1	1,050	29	2.8
営業利益	88	7	8.5	35	3	8.9
経常利益	100	8	8.5	55	1	2.5
当期純利益	60	11	22.0	40	43	—

〈業績予想の前提条件〉 為替レート：102円/\$、国産ナフサ価格：6万7千円/KL

8. 主な設備投資と減価償却費

(1) 設備投資額（検収ベース）、減価償却費の推移

(単位：億円)

	連 結		単 体	
	2013年度 第2四半期累計	2014年度 第2四半期累計	2013年度 第2四半期累計	2014年度 第2四半期累計
設 備 投 資 額	3 0	3 4	2 2	1 8
減 価 償 却 費	4 6	4 6	3 2	3 2

(2) 主な設備投資

(単位：億円)

		稼働時期	総投資額
単体	海外子会社業務システム導入	2013～2014年度	4
	電子材料用粘着剤製造設備	2015年度	2
	新製造事務所改装工事（京都工場）	2015年度	1
三大雅精細化学品（南通）	高吸水性樹脂製造設備	2015年度	5.4
三洋化成精細化学品（南通）	潤滑油添加剤製造設備	2015年度	2
サンヨーカセイ(タイランド)リミテッド [*]	有機合成設備	2014年度	1
	テクニカルセンター	2014年度	1

9. トピックス

(1) 中国で潤滑油向け粘度指数向上剤を生産

当社は、潤滑油に添加して自動車などの省燃費化に貢献する粘度指数向上剤「アクルーブ」シリーズの世界的な需要増に対応するため、中国の関係会社である三洋化成精細化学品(南通)有限公司で5千トン/年規模の生産設備の建設に着手することを決定しました。新製造設備は来年7月に稼働の予定です。当社グループでは、同製品の需要増に対応すべく、グローバルな生産体制の強化と生産拠点の複数化を進めています。旧来の京都工場、鹿島工場(茨城県神栖市)に加え、2011年と2012年には鹿島工場それぞれ1万トンずつ増強し、2013年2月には米国の関係会社であるサンヨーケミカル・アンド・レジンスLLCでも生産能力4千トン/年の設備を新たに稼働させました。

今回の増強により当社グループにおける粘度指数向上剤の生産能力は5万9千トンとなる予定です。

(2) サンヨーカセイ(タイランド)リミテッド・ラヨン工場に新テクニカルセンターを開設

2014年7月、当社の関係会社であるサンヨーカセイ(タイランド)リミテッドのラヨン工場(タイ・ラヨン県)に、新しいテクニカルセンターを開設しました。新テクニカルセンターは、検査課室、評価機器室、サンプル・試薬倉庫を含む約300㎡設備で、クリーンルームを備え、ハードディスク基板製造工程用などの電子部品洗浄剤のラボサンプルも作成することができます。

これにより、タイ国内において幅広いテクニカルサービスを効率よく提供し、多種多様化かつ高度化するお客さまのニーズにより迅速に対応できるようになりました。

(3) 「新規PO開環付加触媒を用いた高一級水酸基比率ポリエーテルポリオールの開発と工業化」が平成25年度高分子学会賞を受賞

当社は、ポリウレタン樹脂用原料として、反応性と疎水性を両立する高一級水酸基比率ポリプロピレングリコール(PPG)に関する新製造プロセスを開発、2012年にその工業化に成功しました。このたびこの工業化と応用製品の開発実績に対して、社団法人高分子学会より「平成25年度高分子学会賞(技術部門)」を受賞し、2014年5月29日に名古屋国際会議場で開催の授賞式において表彰されました。

この度の受賞は、技術独創性・革新性・市場効果、およびその工業化における連続反応プロセスの重要性・波及効果が高く評価されたものです。

以 上